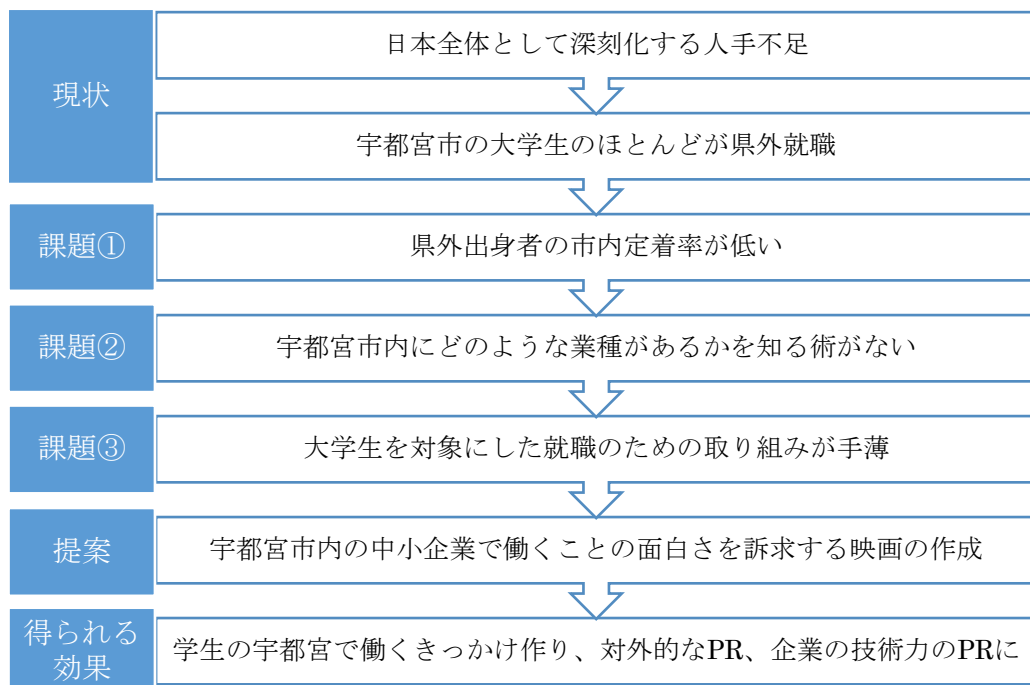


No.3	提案名：大学生に宇都宮就職という選択肢を ～映画『メイド イン ウツノミヤ』～
	提案団体名：宇都宮大学 行政学チーム
	所 属：宇都宮大学 国際学部
	代表者：神林 泰暢 指導教員：中村 祐司

## 1. 提案の要旨

現在日本では少子高齢化に伴う労働力不足が課題となっている。宇都宮市においても人手不足は深刻な課題であり、大学生に関してはその多くが県外就職となっている。本提案では宇都宮市内の大学に通う大学生の宇都宮市における就職が当たり前になる事を目標に、現状と課題を整理した上で施策を提案する。



## 2. 提案の目標

本提案は、暮らしの中で大きな要素の一つである仕事に関して、私たち大学生の宇都宮就職を促すことを目標としたものである。

今回のテーマである「みや暮らし」は宇都宮で生活するうえで関わる全てのことを表すと考える。つまり、人口減少社会を迎えた宇都宮市で市民がより良い生活にするためには、住まいや子育て、健康、交通などあらゆる面での取り組みが求められる。そのうえで私たちはどれか一つへのアプローチではなく、暮らしの中のより多くの要素に対して良い影響を与える施策を行うことが重要だと考える。暮らしの中の様々な要素のうち、仕事は住まいや子育て、健康など他の要素に最も影響を与えやすいものであると考える。その理由は、暮らしの中のあらゆることにはお金がかかるためである。

一方で、「らしい暮らし」とは何か。私たちは、市民それぞれが自身の特徴を最大限発揮できること、つまりやりたいと思ったことを実現できることこそが「らしい暮らし」ができることであると考えている。具体的には、やりたいと思ったことを仕事にする、または仕事でお金を稼ぐことで他のやりたいことを充実させることができれば宇都宮市民がより「自分らしく」生きられると考える。そのため、本提案では宇都宮市での仕事についての施策を提案することで宇都宮市民の自分らしい「みや暮らし」を実現することを目標とする。

仕事に関する施策を行う対象は「大学生の就職」とする。これは大学全入時代と呼ばれる現在、これから仕事を始める大学生はこれからの宇都宮市を支えていく存在であるにもかかわらず、宇都宮での就職が少ない現状があるためである。

よって、宇都宮市内の大学生が宇都宮で仕事としてやりたいことを見つけられることを目標とし、宇都宮の大学に通う大学生にとって宇都宮での就職がスタンダードな状態を作り上げるために施策を提案する。

### 3. 現状の分析と課題

—宇都宮市の企業を取り巻く状況—

現在、日本が抱える大きな問題の一つに、労働力の不足がある。図1の国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2017年推計）」における出生中位（死亡中位）推計を基に見てみると、人口の減少に伴い生産年齢人口も減少している。また、今後も人口減少が進むことが予想されている。（図1）

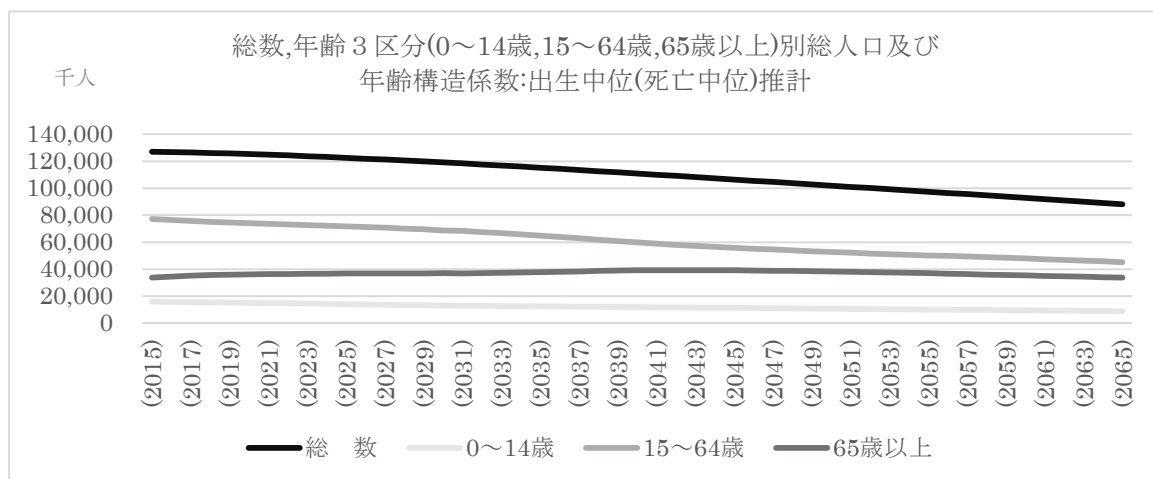


図1

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成29年推計）「結果の概要」掲載表 表1-1 総数, 年齢3区分(0~14歳, 15~64歳, 65歳以上)別総人口及び年齢構造係数: 出生中位(死亡中位)推計

またハローワーク宇都宮によると、図2からわかるように有効求人倍率は平成25年から上昇しており、宇都宮市内においても人手不足が課題となっていることがわかる。株式会社帝国データバンクが行っている「人手不足に対する栃木県内企業の意識調査」では、正社員について「不足」

していると回答した企業は135社のうち65社に上り、構成比は48.1%を占めた<sup>1</sup>。さらにこの人手不足感は安定的に悪化が続いているという。

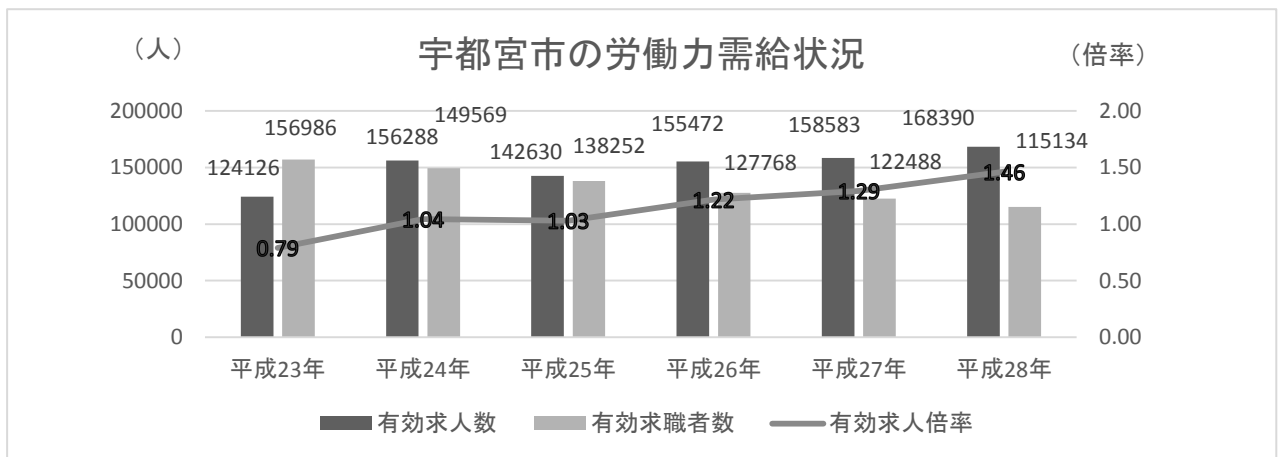


図 2

資料：ハローワーク宇都宮

※有効求人数、有効求職者数は、各年度の月間有効求人数および月間有効求職者数の合計。

ここからわかる通り、宇都宮市の企業の多くは人手不足の課題を抱えており、その深刻さは年々増していることがわかる。

—宇都宮市の学生を取り巻く状況—

一方で学生はどのような状況に置かれているのだろうか。有効求人倍率が高まっているため、栃木県内の大学生の内定率は近年高まっている。下野新聞によると、2018年春の県内新規学卒者の就職内定率は3月末現在で、大卒が前年同期比0.2ポイント増の97.9%、短大卒が0.2ポイント増の97.3%、高卒が前年同期と同じ99.5%で、いずれも統計比較可能な1998年以降で最も高かった<sup>2</sup>という。しかし、この状況が必ずしも宇都宮市にとって良いものかというところではない。リクルートキャリア就職みらい研究所が発表した「大学生の地域間移動に関するレポート 2018」によると、栃木県にある大学に通う学生の就職先は首都圏が多くなっている。またその内訳をみると、北関東出身者で北関東にある企業に就職する者が20%、北関東出身者で北関東以外にある企業に就職する者が10%、北関東以外出身で北関東に就職する者が10%、北関東以外出身で北関東以外に就職する者が60%となっており、特に他地域出身の学生の地域内への定着率が他地域と比べて低い<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 株式会社 帝国データバンク 宇都宮支店『特別企画：人手不足に対する栃木県内企業の意識調査（2018年7月）』

[http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180901\\_24.pdf](http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180901_24.pdf) (アクセス日：2018/11/20)

<sup>2</sup> 下野新聞 下野新聞「SOON」ニュース 2018年4月28日 『今春卒の大学生内定率97.9% 栃木県内、3月末現在』

<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/26518> (アクセス日：2018/11/26)

<sup>3</sup> リクルートキャリア就職みらい研究所 「大学生の地域間移動に関するレポート 2018」より [https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki\\_2018s-1.pdf](https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki_2018s-1.pdf) (2018/11/26)

宇都宮大学内の地域創生推進機構 COC+「とちぎ仕事学」部門が宇都宮大学の学生を対象に行ったアンケートでは、「栃木県で就職活動を行ったか」という質問に対して「はい」と答えた学生が 138 名 (38%)、「いいえ」と答えた学生が 224 名 (62%) だった。「いいえ」と回答した学生に栃木県で就職活動を行わなかった理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「東京・首都圏しか考えていなかった (38%)」、続いて「栃木県に希望する業種がなかった (35%)」だったという<sup>4</sup>。

また、リクルートキャリア就職みらい研究所が 2018 年 10 月 30 日に発表した就職プロセス調査 2019 年卒 調査報告書によると、就職活動を実施した学生が参考にするメディアは、個別の企業・各種団体等のホームページ、就職情報サイト、個別の企業・各種団体等から送られるメール、学生同士のコミュニティサイト、大学にある求人票が上位 5 位であり、その中でも個別の企業・各種団体等のホームページと就職情報サイトを参考にしている学生が非常に多い<sup>5</sup>。

#### ―宇都宮市の採用・就職への取り組み―

宇都宮市商工振興課として行っている業務の中で、大学生の就職・採用に関わる「就職支援に関すること」と「UJI ターン就職に関すること」に関して商工振興課の担当者にヒアリングを行った。その内容をまとめたものが以下である。

#### 就職支援に関して

現在市として就職支援として行っている事業は、就職支援セミナーと就職マッチング事業の 2 つがある。就職支援セミナーでは、2 日かけて、企業の求める人材像や面接対策など就職活動のノウハウを学ぶという。講師にキャリアコンサルタントを招き行うものとなっている。平成 29 年度はのべ 63 人が受講し、そのうち 16 人が就職した。就職マッチング事業は、全 18 回のプログラムとなっており、キャリアカウンセリングから、就職活動のノウハウを学ぶ研修、職場見学、就職先の紹介、マッチングまでをトータルでサポートするプログラムとなっている。平成 29 年度は、16 人が受講し、うち 10 人が就職した。

2 つの取り組みを通して、参加者からは「就職活動の取り組み方を知ることができてよかった」「就職活動に対して前向きになれた」など、ポジティブな意見があったという。

#### UJI ターン就職に関して

UJI ターンへの関心が高まっていることをうけ、市として 3 つの取り組みを行っている。

平成 28 年より行っている取り組みが、UJI ターンに関する冊子の配布である。東京の大学に進学する若者が多いということで、都内数大学に冊子を設置している。さらに、成人式の際に県外に進学した若者が一堂に会するため、その際にも配布をしている。

平成 29 年より行っている取り組みが、UJI ターン人材確保支援補助金である。県外の大学に在

---

<sup>4</sup>地域創生推進機構 COC+「とちぎ仕事学」部門

『平成 29 年度 宇都宮大学学生への就職実態調査 結果報告書』より作成

<sup>5</sup> リクルートキャリア就職みらい研究所 『就職プロセス調査 2019 年卒 調査報告書』

[https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2018/10/katurepo\\_2019s\\_201810.pdf](https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2018/10/katurepo_2019s_201810.pdf)(アクセス日：2018/11/23)

籍する学生が、市内の対象企業でインターンシップをする際に、企業側が交通費と宿泊費の一部または全部を負担するという取り組みで、受け入れる事業者には情報発信の支援と受け入れ経費の補助が行われる。県外に進学した学生からすると、地元就職を考えていても交通費や宿泊費が高く、地元での就職活動のハードルが上がっていることを受け始まった取り組みである。1年目の平成29年度は13社が登録し、3社で11名の学生がインターンシップを行った。

さらに、平成30年から行っている取り組みとして、高校生向けに地元企業を知ってもらうイベントを試験的に実施している。県内17社が県立宇都宮南高校の体育館でブースを構え、宇都宮南高校の生徒に向けて仕事内容ややりがいを説明するという内容である。さらに、実際の業務を体験してもらい、実際に働くイメージをしてもらうことを狙いとしている。

市としては、県内の高校から進学する生徒のうち、8割が県外進学であることをうけ、例えば県外に進学しても、進学や就職の際に高校時代を思い出し地元就職を検討してもらいたいと考え、このイベントを実施した。イベント後のアンケートでは、「将来の選択肢が広がった」「地元で就職したくなった」「もっとたくさんの業種を見たい」といった意見が多かったという。これを受け市では、来年度市内の全高校を対象にイベントを実施する計画だという。

## ーとちぎ仕事学ー

### とちぎ仕事学とは

以下とちぎ仕事学ホームページより

宇都宮大学の各学部では、さまざまなアプローチで、地域に向き合う講義や演習、プロジェクトを展開しています。宇都宮大学では、栃木県の地（知）の拠点として、これまで以上に、学生のみなさんと地域社会を繋ぐ、新しい取り組み（みなさんのキャリア形成の支援プログラムや教育プログラム）を始めています。その基本にあるのが、大学が立地する栃木をフィールドに、「仕事」を考えることを通して、地域の現状（課題と可能性）を理解し、「仕事」を通して皆さんが社会に関わり、社会の形成に意欲的に参画していくことを支援していく姿勢です。ここで言う「仕事」は、単に報酬に代える「労働」としてではなく、社会参画の「活動」として考えています。どのような職業であっても、それぞれが、その仕事を真摯に意志的にまっとうしていくことが、より良い地域変革、社会変革への貢献へと繋がります<sup>6</sup>。

## コンテンツ

- ・センパイに聞く！とちぎで仕事

宇都宮大学を卒業して県内で働く社会人のセンパイのインタビュー記事を掲載します。

- ・教職員が綴る とちぎの話

ブランド総合研究所が2016年10月に発表した47都道府県魅力度ランキングでは、見事ブービー（46位）に輝いた栃木県ですが（全国30372名によるアンケート調査による）、みなさんにとっての魅力度をアップすべく、とちぎの個性や魅力のあれこれを教職員が発信していきます。

---

<sup>6</sup> 宇都宮大学 COC+事業 18歳からの「とちぎ/仕事/学」とちぎ仕事学とは  
<http://cocplus.utsunomiya-u.ac.jp/about.html>(アクセス日：2018/11/28)

合宿、ワークショップ、セミナー

- ・栃木県内の魅力的な中小企業をバスで回る見学バスツアー
- ・社会人から働くことについて話を聞く会
- ・アイディアソン

授業

- ・地域編集論
- ・ソーシャル・イノベーション（社会変革）概論
- ・とちぎ仕事学
- ・とちぎ企業人に学ぶ・業界・仕事・社会・

これらの取り組みの成果とその中で感じていること

これらの取り組みを行う中でどのような成果が出たのか、またどういった思いを持っているのかを、宇都宮大学 地域連携教育研究センター内 COC+事業「とちぎ仕事学」部門の方に伺ってきた。

COC+では、これまで様々な取り組みを行い、今年で4年目をむかえる。それらの取り組みを行う中で見えてきた成果はそれぞれあるが、就職に関して、COC+の取り組みが直接的に就職に影響を与えているか判断をするのは難しいという。

しかしながら、新入生を対象に開講されている新入生セミナー内で「とちぎを知る」ガイダンスを実施し、栃木県内の企業について紹介したところ、学生へのアンケートの記述欄には、「いい企業/有名な企業/長寿企業がたくさんある」「思ったより魅力がある」「様々な産業がとても発展している」など、前向きな声が多かったという。この結果を受け、COC+の取り組みは即効性があるものではなく、「漢方薬」のように、じわじわ効いてくるものだということがわかってきたという。就職の時期になって何かをするだけでなく、低年次から栃木県自体の魅力や、栃木県の企業の魅力を知る機会を多く作ることで、就職時期になったときに、栃木県内の企業が選択肢に入ってくると考えている。

しかし、実際に栃木の企業や働き方を知った学生の反応は良いものの、その情報が学生に届いていないことは課題であるという。栃木県は全国的に見て県民所得が高いなど、学生に対してアピールできることは多いにも関わらず、学生はそれらの事実をほとんど知らないのが現状である。この現状を変えるべく、COC+として情報発信に力を入れていきたいという。

－課題の整理－

これらから、現在宇都宮市が変えている課題として、以下の3つがあることが明らかとなった。

①. 県外出身者の市内定着率が低い

②. 宇都宮市内にどのような業種があるかを知る術がない

③. 大学生を対象にした就職のための取り組みが手薄

また、これらの課題を解決するためにCOC+のように大学の中で取り組みが行われており、参加した学生からは栃木県内の企業へのポジティブな意見が多くあるが、学生に対して十分な認知度があるとはいえず、地元就職が増えたというところまでは到達していない。

#### 4. 施策事業の提案

ここまで宇都宮市の現状と課題を整理した。これを受け私たちは、学生と宇都宮市内の中小企業、行政の『映画づくり』による課題解決を提案する。

ある特定の地域を舞台に映画を作成し、地域を盛り上げようという取り組みは「ご当地映画」と呼ばれ、三重県桑名市が成功を収めたことで全国的に広がっており、宇都宮市においても『キスできる餃子』が2018年6月に公開されている。地域の特産を取り上げたり、有名な観光地をロケ地として使ったりすることで交流人口を増やそうという狙いのものが多い。

一方で、近年中小企業の奮闘を描いたドラマが人気を博している。『下町ロケット』や『陸王』、『ルーズベルトゲーム』といった中小企業を取り上げた作品は、若者からお年寄りまで多くの人に親しまれた作品である。

私たちは、『ご当地映画×中小企業』のコンセプトの映画を、宇都宮の中小企業、行政、大学生が協働で制作することで、現在宇都宮市が抱えている課題を解決できるのではないかと考える。

ータイトルとコンセプトー

映画『メイド イン ウツノミヤ (仮)』

宇都宮市内にある複数の企業を舞台に、中小企業とそこで働く人々の奮闘を描く。それを通してどのような企業があるのかということを知ってもらう。また、映画の特設サイトには宇都宮市内の企業の採用情報を併せて載せることで、単なるドラマの世界としてではなく、実際に働く場所としてイメージができる仕組みとする。映画の制作に当たっては宇都宮市、学生、市内の事業者、市民が関わる仕組みとすることで、市内に暮らすより多くの人に当事者意識を持ってもらう。

ー役割ー

宇都宮市：協力企業の募集、映画制作会社へのオファー等

学生：制作現場での手伝い、出演

市民：制作現場での手伝い、出演

事業者：ロケ場所の提供、出演

－得られる効果－

#### ① 学生の宇都宮での就職数の増加

本映画で取り上げるのは、全て宇都宮市の企業であり、宇都宮の企業がどのような事業を行っているのか、どのような働き方をしている、どんなことを働き甲斐にしているかがわかるストーリー構成とする。この映画を宇都宮市内の学生が見ることにより、映画の中で見た働き方をしたいと思う学生が増加することが見込まれる。直接的に就職に繋がらずとも、宇都宮でも面白い働き方ができるということが伝えられれば、就職活動の際に候補としてもらえる可能性は高まる。また、宇都宮以外の学生に対しても同様に PR が可能になる。さらに高校生にもこの映画を見てもらうことができれば、県外から宇都宮市内の大学に進学した学生が就職する際に宇都宮市内での就職も視野に入れてもらうことができ、県外出身者の定着率も高まることが予想される。

#### ② 市としての対外的な PR

さらに本映画が全国で公開されることにより、宇都宮市としての PR にもつながる。映画の聖地巡礼としての観光客の増加は全国的に注目されており、『君の名は。』の舞台となった岐阜県飛騨市では、聖地巡礼が社会現象にもなった。もちろんこれは映画の完成度やどれだけ人々に受け入れる作品になるかによるが、一定の効果は期待できるだろう。

#### ③ 企業の PR

映画の公開がもたらす効果は、観光面だけではない。今回メインとして取り上げる宇都宮市の企業にも良い影響があると考えられる。映画内で高い技術力があることを示すことができれば、その技術力が日本に知れ渡るチャンスにもなり、この映画を通して新たな顧客を獲得するチャンスにもなり得る。

－遂行上の問題点－

映画を制作するとなると、想定される問題点は大きく 4 つあると考えられる。1 つ目に、コストの問題である。映画を制作するとなると莫大な資金が必要となる。学生や市民から無償で協力を得られたとしても、そのほかの部分で発生する多額な費用をどこが負担するかは最も大きな問題である。2 つ目に品質に関して、制作側に市民や学生が関わる事、舞台となるのが宇都宮市の企業であること、素人のキャストも出演することを考えると、そのクオリティを保つことは容易なことではない。3 つ目に、企業や市民が映画制作に協力してくれるかどうかも大きな問題である。映画の撮影となると、本来の業務と全く違うところで多大な時間を使わなければならない。自社の PR のため、今後の人材の確保のためにそこまで協力してくれる企業を探すことも容易ではないだろう。4 つ目に持続性の問題がある。大学生の宇都宮での就職が増えることが大目的であるが、映画は一定期間しか公開できない。一度流行ったとしても、その映画が公開されて数年がたって映画の存在さえ忘れられてしまったのでは意味がなくなってしまふ。映画の公開だけにとどまらず、大学生に PR を続けていくことが求められる。



## 5. 最後に

今回、『私達らしい「みや暮らし」』の実現のために、宇都宮で自分らしく働く若者が増えるための施策を提案した。しかし、今回提案した映画の制作に関しては、若者に宇都宮で働くという選択肢を持ってもらうための「種まき」的な取り組みでしかない。宇都宮での就職を選択肢として考えてもらった先には、東京の企業と比べて良いと思ってもらう必要があり、更にはずっと働き続けたいと思ってもらう必要がある。そのためには各企業が採用に関して今以上に力を入れなければならないし、働きやすい環境づくりに努めなければならない。行政にはその環境づくりの支援も求められる。若者にとって「らしく」働き続けることができる市であるためには、一部の人が頑張るのではなく、市全体として環境を作っていかなければならないだろう。

## 参考資料

株式会社 帝国データバンク 宇都宮支店『特別企画: 人手不足に対する栃木県内企業の意識調査 (2018 年 7 月)』

[http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180901\\_24.pdf](http://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180901_24.pdf)(アクセス日 : 2018/11/20)

下野新聞 下野新聞「SOON」ニュース 2018 年 4 月 28 日 『今春卒の大学生内定率 97.9% 栃木県内、3 月末現在』

<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/26518>(アクセス日 : 2018/11/26)

リクルートキャリア就職みらい研究所 「大学生の地域間移動に関するレポート 2018」より

[https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki\\_2018s-1.pdf](https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki_2018s-1.pdf)(アクセス日 : 2018/11/26)

リクルートキャリア就職みらい研究所 「大学生の地域間移動に関するレポート 2018」より

[https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki\\_2018s-1.pdf](https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2017/10/chiiki_2018s-1.pdf)(アクセス日 : 2018/11/26)

リクルートキャリア就職みらい研究所 『就職プロセス調査 2019 年卒 調査報告書』

[https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2018/10/katurepo\\_2019s\\_201810.pdf](https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2018/10/katurepo_2019s_201810.pdf)(アクセス日 : 2018/11/23)

宇都宮大学 COC+事業 18 歳からの「と/ち/ぎ/仕/事/学」とちぎ仕事学とは

<http://cocplus.utsunomiya-u.ac.jp/about.html>(アクセス日 : 2018/11/28)